

繪畫研究に就て

齊藤 利彦

(下) 何故なら一人一人に失く描く上の癖があります。この上に打ち抜いて「技術」を發見してそれを押しつけるのでなければ「實力」ばかりでなく「技術」を發揮すべきで、只漫然と好きだからと描いて居るのは、新らしく「物の認識」の大変な事。

本畫塾は、以上の様に「工夫する能力」を養ふ所

年記念賦

自治制發布五十

年記念賦

